

§ 2 昭和28年度ローマ字教育実験学級の時間配当等 について

1 時間配当

(1) 昭和28年度の総時間は年間40時間とする。

(2) 年間40時間を次の区分で各学期に配当する。

第1学期 16時間〔つなぎの期間(後述)に、このうち4時間をあてる。〕

第2学期 16時間

第3学期 8時間〔おそくとも2月20日までに40時間の指導が終るようにする。〕

これを基準とするが、各学校の実情に応じて、各学期の時間を2時間以内の範囲内で適当に増減することができる。ただし、1か年を通じて合計40時間は増減することはできない。

(3) 週間・年間の指導回数、毎回の指導時間(分数)等については、各学級の担当教官がこれまでの経験に基き、最も効果が上がり、しかも実施しやすいと信ずるところにより、昭和28年度使用予定の教科書について、その内容や指導の目的に即して決定する。(教科書を1部同封する。児童に対する分は4月中に発送の予定。)

(4) 各教官が決定した時間配当ならびに毎回の授業時間等については、年間の予定表を別紙の様式に従って作成し、4月30日までに到着するよう国語課長あてに提出する。

2 教科書へはいるまでのつなぎの期間

(1) 4月いっぱい、第3年度使用予定の教科書へはいるまでのつなぎの期間とする。1の(2)にもしたとおり、この期間には4時間をあてる。授業の回数および1回の時間は各学級の自由であるが、合計が4時間になるように計画する。

(2) つなぎの期間は、新しい教科書(第6学年用)へはいるための準備の期間とし、このことを考慮しつつ、次のような指導を行う。

(a) 昭和27年の指導試案(注:「やや進んだ段階におけるローマ字文の学習指導」)にしるされていることのうち、まだ指導していないこと、または、指導がふじゅうぶんと思われること。

(b) 現在使用中の教科書(第5学年用)で残ったところのうち、

新しい教科書へはいるにふさわしいと思われる部分。

なお、現行の教科書（第5学年用）を全部終った学級では次のようなことを行う。

(c) 自由書き（作文・手紙・記録など）

(d) 課外読物（ただし、強制的に新しいものを買わせないようにすること。）

3 教科書の使用を始める時期

(1) 第3年度に使用すべき教科書（第5学年用）は、各学級とも昭和28年5月からいっせいに始めるものとする。

(2) 現在使用中の教科書（第5学年用）の残った部分は、昭和28年5月以降は、教材により、また、能力別指導に際して、副読本として使用する。

4 第3年度 学級別学習指導観察記録簿の記入

(1) 学級別学習指導観察記録簿は、1回の授業ごとに記入する。

(2) 記録簿は、添付の「ひな型」で示したような形式の用紙を各学校で作成する。

(3) 記録簿の各欄の大きさは、適宜に伸縮してさしつかえない。

(4) 用紙は規格B4判を横長に用い、ひな型のようにまん中から二つおりにしてとじられるようにする。

(5) 記録簿の記入は添付の「記入例」による。

(6) 所定の欄へ書ききれない場合には、「V その他」の欄へ書く。

(7) それでも書ききれない場合は、記録簿の用紙と同大の白紙を補助紙として用いる。（これは、ページ数に教えない。）

(8) (6), (7)の場合には、どの事項についてのことが、はっきりとわかるように注記をしておく。

(9) 記入は、重要なことについてだけ、具体的に簡潔に記入する。

(10) 毎回の授業について必ずしもすべての欄に記入する必要はなく、その回に実際に取り扱った事項だけについて記入すればよい。

取り扱わなかった事項については、該当欄に斜線を引いておく。

(11) II～Vについては、必要に応じて、グループ別に記入する。

(12) 個人別の観察記録は、必要に応じてそれぞれの欄へ記入する。

(13) 児童から提案された事からは、初めに⊗印をつけて記入する。

(14) ページ数は1か年を通じて、通しページとする。

(15) この記録簿は少なくとも2か月ごとにまとめて、文部省あて提出する。

ローマ字教育実験学級 昭和28年度 年間授業予定表

(用紙は何枚になってもよい)

学校長名押印 _____

学校名 _____

担当教官氏名 _____

	期 間	第 回	教 材	時 間 (分)	時間の累計
第1学期 (時間)	4月 日	1			
	↓	2			
	4月 日				
	5月 日				
	↓				
	月 日				
第2学期 (時間)	月 日				
	↓				
	月 日				
第3学期 (時間)	月 日				
	↓				
	月 日				
					2400分

この予定を編成した理由：(特に第2年度までの甲類・乙類の区分に関連して書いてください。)

第3年度 学級別学習指導観察記録簿（ひな型） ページ数

(学校名) 小学校	(学校長名) ㊟	昭和 年 月 分	
第5学年 組	(担当教官名)	月 日 時 分から 時 分まで	
(教科書名) (話題学習の場合は斜線を引く。)		(教材名:教科書の第何課,表題など。) (話題:話題学習の場合は話題。)	
指導のおもな目標 (必要があればその理由。) (話題学習の場合は話題を設定した理由。)			
		A グループ	B グループ
I 準備 の 手 続	語句の提出		
	予備知識		
	目 的		
	反 省		
II 読 む こ と	予定された学習活動		結 果 ・ 反 省

ページ数

Ⅲ 書くこと・言語技術の指導など	予定された学習活動	結果・反省
Ⅳ 指導の計画についての反省		
Ⅴ その他		

第3年度 学級別学習指導観察記録簿 (記入例) ページ数

(学校名) 小学校	(学校長名) ㊦	昭和 28 年 a 月分		
第5学年 x 組	(担当教官氏名)	b 月 c 日 d 時 e 分から f 時 g 分まで		
(教科書名) (話題学習の場合は斜線を引く。)	(教材名, 教科書の第何課, 表題など。) (話題学習の場合は話題。)			
指導のおもな目標 (必要があればその理由。) (話題学習の場合は話題を設定した理由。) ・美しい話を読んで感動することができるようにする。 ・非常の時に際して, あわてず, 朗らかさを失わないような心構えを養うようにする。				
	A グループ	B グループ	C グループ	
I 準 備 の 手 続	語句の提出 (提出しなかった。)	・「死のしずけさ」, 「やみをぬって」, 「歌の心を生かす」	・ B のほか, 「聞きほれる」, 「手がかり」	
	予備知識	・ 船が突然沈んだ。お客はどうするか, どうなるか, どんな気持になるか, 想像力を発達させながら予備知識のふじゅうぶんな児童に対して, 理解の背景を固める。	・ Aグループと共通。 ・ A, Bグループと共通の取扱のほか, m ページ n 行目から p ページ q 行目までを読んで聞かせる。	
	目的	1 この話を読んで, どんな気持がしたか。 2 このような心構えにならなければならないのは, どのような場合か。	⊗この話を読んで, 心細い気持になるところはどこか。うれしくなるところはどこか。どうしてうれしい気持になるのか。だれがうれしい気持をおこさせたか。	⊗マッケンナは救われたかどうか。 ・ボートは何を手がかりにして, 助けにきたか。
	反省	・ 目的の2は, 指導によっては児童から提案されたのであろうが, 指導が足りなかったため, 提案されなかったのは残念だった。	・ 「歌の心を生かす。」ということの理解が徹底しなかった。	・ 文全体をもう少し読んで聞かせたほうがよかった。

⊗印は児童から出された事からであることを示す。

	予定された学習活動	結果・反省
Ⅱ 読 む こ と	<p>(A)やみの中から聞えてきた歌は、どんな歌い方だったか。</p> <p>(B)マッケンナは歌を聞いて、どんな気持ちになったか。</p> <p>(C)歌が聞えなかったら、マッケンナはどうなったと思うか。</p> <p>(D)歌をうたっていた人はだれか。またそれはどこのところを読めばわかるか。</p> <p>(E)「あの美しい歌は、いまも、われわれの耳にひびいてくるように感じられる……。」ということは、わたくしたちに、どんなことを教えてくれるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(C)はCグループにはむずかしすぎた。 ・(E)はAグループの児童のうち、半数だけしか答えられなかった。 ・まず、文全体の意味・内容を理解させることによって、むずかしい語句を理解させることに成功した。 ・読む目的を忘れて、作業だけをする児童が減った。 ・文を読んで、感動していることは、読む態度に現れているが、それをことばで言い表わすことは、まだじゅうぶんにできない。 ・このような話を読むことによって、心構え・考え方、今後の自分の生活をどのようにしていったらよいのかということについて、考える力がまだ足りない。
Ⅲ 書 く こ と ・ 言 語 技 術 の 指 導 な ど	<p>(A)読みの問題について答えさせる。</p> <p>(A), (B), (C)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aグループは、なるべく、教科書の文に用いられていないことばを用いて書かせる。 ・Cグループは、教科書の文に用いられていることばを用いて書かせる。 ・Bグループは、Aグループ、Cグループのやり方を適当にまぜる。 <p>⊗(B)「死のしずけさがあたりにはひろがる」「聞きほれる」「手がかり」「やみをぬって」「歌の心を生かす」について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aグループ：この語句を使わなければならないような情景・状態を書く。 ・Bグループ：この語句を使って、短文を書く。 ・Cグループ：教科書の中で、この語句が使っているところの文を書き、なお余裕がある児童に対して、グループと同じ作業をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Aグループの児童でも、教科書に用いられている語句を少し変えた程度のものしか書けないものが多く、適切な修飾・形容の語句、ぴったりした動詞を巧みに使いこなすものは少ない。 ・Aグループには、作業に困難を感じた児童が多かった。
Ⅳ 指 導 い て の 計 画 に 省	<p>(A)速く、正しく判断を下すことに慣れていないために、Ⅲの(A)の作業に時間がかかり(B)の作業を実施することができなかった。</p> <p>(B)当地は山国で、海に親しみが少ない所である。そこで、まず、「海」についての予備知識を与えるようにつとめたのが、理解を助けたと思われる。</p> <p>(C)Cグループに対して課した作業を指導する時間がなかったので、あとでノートの字を訂正した。</p>	
Ⅴ そ の 他	<p>(A)農繁期のため、欠席者が多い。 (本日、5名)</p> <p>(B)……………。</p>	<p>注：教材によっては、読むことの指導もまた各グループごとに準備の手続に応じた目標をたてて行うべきである。</p>

教材は文部省著作教科書「国語」第6学年 中 44ページ「くちびるに歌をもて」による。

§ 3 昭和28年度ローマ字教育実験学級のテスト

注：テスト問題のうち，ローマ字文は便宜上訓令式つづり方によって示した。各学級でテスト用紙を作成の際はそれぞれのつづり方によることとなっている。

〔I〕 第1期テスト

ローマ字教育実験学級，昭和28年度第1期テストは，各学級において，第1学期の予定授業を終った後，直ちに実施するもので，〔I〕わかち書き，〔II〕ABC順，〔III〕筋書 の3種類とする。

その要領は次のとおりである。

種 類	問 題	テスト用紙	時 間	採 点
〔I〕わかち書き	文部省で作成	各学校で印刷	5分	文部省で行う
〔II〕A B C 順	〃	〃	8分	〃
〔III〕筋 書	〃	〃	20分	〃

以上の3種類をこの順序で続けて実施する。ただし，各種類の問題用紙を全部1度に配るのでなく，一つのテストがすんで，その答案を集め終ってから，その次の問題用紙を配るようにする。

テストを終わってから

- 1 番号・名まえを書きおとしている児童がないかを調べる。
- 2 番号順にそろえ，表紙（学校名・問題の種類・実施年月日を明記）をつけて，紙の左側をしっかりとしたひもでとじる。
- 3 児童の名簿（当日の欠席を記入）を添える。
- 4 教師の模範答案を添える。
- 5 文部省調査局国語課長あてに送る。

〔各種類の問題の実施方法〕

〔I〕 わかち書き

1 準 備

- (1) 別紙1に示すとおり用の紙を作成する。
- (2) 用紙はわら半紙半分の大きさ(規格 B5 判)のものを縦長に用いる。
- (3) 実施に際しては用紙を裏向きに配り、問題のやり方を説明する。
- (4) 説明のときに、文部省指定(下記)の実例は黒板へ書いておき、テストの実施にあたっては、それを消さずにおく。

2 児童に対する注意(問題のやり方の説明。)

- (1) 紙を裏向きに配りますから、「始め。」というまでは問題を読んではいけません。
- (2) 問題は、ローマ字文のわかち書きのまちがっているところをなおすのです。まちがっているところのなおし方を説明します。
- (3) たとえば、(以下の説明は口で言いながら、実際に板書し、テストが終了するまでそれを消さないでおく。なお、つづり方などは、それぞれの方式に従うことはいうまでもない。)
 - 「きょうはよい天気です」とローマ字文で書くとき、
Kyôwa yoi ten ki desu.
と書いてあれば、わかち書きがまちがっているでしょう。
 - これを正しいわかち書きになおすのです。
 - なおすときには次のようにします。
 - ことばとことばとを離さなければならないところには、
Kyô/wa というふうに縦に長い線をはっきりと字と字との間へ引いてください。これは赤鉛筆などではっきりと引きます。
 - ことばとことばとをくっつけるときには、ten () kiのように()の印をはっきりとつけてください。これもなるべく赤鉛筆でつけてください。
 - わかち書きをなおす場合には、いま説明したように、/の印と

この印をつけてください。わかち書きのまちがっているところを消して、その下へ正しいわかち書きで書きなおしたりなどしてはいけません。

- (4) 問題の文にはわかち書きのまちがっているところがあるところがあります。いくつあるかは言いませんが、よく読んでまちがっているところを全部なおしてください。
- (5) 「やめ。」と言ったらすぐにやめなさい。
- (6) 時間は5分間です。
- (7) 名まえの所はあとで書きますから、「始め。」と言ったらすぐに問題にとりかかってください。

3 実 施

- (1) 「始め。」(いっせいに始めさせる。)
- (2) (5分たったら,)「やめ。」(いっせいにやめさせる。)
- (3) 名まえの欄に記入させる。
- (4) 集めて番号順にとじる。

〔I〕 ABC順

1 準 備

- (1) 別紙2に示すとおり用の紙を作成する。
- (2) 用紙はわら半紙半分の大きさ(規格 B5判)のものを縦長に用いる。
- (3) 実施に際しては用紙を裏向きに配る。

2 児童に対する注意(問題のやり方の説明。)

- (1) 紙を裏向きに配りますから、「始め。」と言うまでは問題を読んではいけません。
- (2) 問題のやり方は、紙に書いてあります。どういうことをするのか、よくそれを読んで、まちがえないようにやってください。
- (3) 「やめ。」と言ったら、すぐにやめてください。
- (4) 時間は8分間です。
- (5) 名まえの所はあとで書きますから、「始め。」と言ったらすぐ

に始めてください。

3 実 施

〔Ⅰ〕に同じ。(ただし、時間は8分。)

〔Ⅲ〕 筋 書

1 準 備

(1) 別紙3の(1)、(2)に示すとおりの用紙を作成する。

(2) 用紙は(1)、(2)ともわら半紙の大きさ(規格B4判)のものを横長に用いる。

(3) 実施に際しては用紙を裏向きに配る。

2 児童に対する注意

(1) 紙を裏向きに配ります。今度は問題の紙と質問の紙と2枚あります。両方とも「始め。」と言うまでは読んではいけません。

(2) 今度の問題は筋書を作るのですが、問題をよく読んで質問に答えてください。やり方は紙に書いてありますから、よく読んでそのとおりにやってください。

(3) 「やめ。」と言ったら、すぐにやめてください。

(4) 時間は問題を読む時間、質問に答える時間を合わせて20分です。

(5) 名まえのところは2枚ともあとで書きます。

3 実 施

〔Ⅰ〕に同じ。(ただし、時間は20分。)

なお、問題・質問はそれぞれ別にまとめてとじる。

別紙 1

〔I〕 わかち書き	小学校	5年 組	番号	名 まえ	男 — 女
-----------	-----	------	----	---------	-------------

次の文のわかち書きのまちがっているところをなおしなさい。

Imôto no Kazu tyan wa boku ga 3-nenseini natta
toki ni umareta nodesu ga, mô kotosi no harukara
yôtien ni kayotteimasu.

Mada, hitori de iku nowa abunia no de, mai asa
bokuto issyoni utio demasu.

(問題作成上の注意)

上に————をつけた語は、特に注意してここに書いたとおりのわかち書きで書くこと。その他のわかち書きは日常指導しているとおりにすること。(また、つづり方はすべて、それぞれの方式になおすことはいうまでもない。)なお、————は実際の用紙にはつけてはならない。

別紙 2

〔Ⅰ〕 A B C 順

小学校	5 年 組	番号	名 まえ	男 女
-----	-------	----	---------	--------

(1) 次の五つのことばを、下のわくのあいている番号のところへ、一つずつ書き入れて、全体が a b c 順に並ぶようにしなさい。

matti, umi, atama, kome, daidokoro

(1)	(2) bōsi	(3)
(4) enpitu	(5)	(6)
(7) sakura	(8)	(9) yama

(2) 次の地名を a b c 順に、右側のわくの中へ書き入れなさい。(2字目も注意して a b c 順になるようにしなさい。)

Kyōto, Kagosima,
Tōkyō, Nagoya,
Ōsaka, Niigata,
Sizuoka, Sapporo,
Yokohama,
Hukuoka

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)
(9)
(10)

(問題用紙作成上の注意)

つづり方等は、各方式のものに書きなおすこと。ただし、語・地名の順序はこのとおりでさしつかえない。

別紙 3の(1)

〔Ⅲ〕 筋 書	小学校	5年 組	番号	名 まえ	男 女
---------	-----	------	----	---------	--------

〔もんだい〕

この文をよんで、次のしつもんに答えなさい。

(1) Nani mo haitte inai tyawan o sara ni nosete, tukue no hasi ni oite, tukue no hantai no gawa o karuku tonton to tataite mimasyô. Suruto, tukue wa sindô site, sore to dôzi ni tyawan wa katakata to oto o tateru desyô. Kore de, sindô ga tukue o tutawatte itte, tyawan no aru tokoro made todoita koto ga wakarimasu.

(2) Kondo wa, ima no tyawan ni mizu o irete mimasyô. Mizu wa tyawan no naka de sugu ugokanaku narimasu. Tokoro de, tukue no hantaigawa o ton to karuku tataite mimasyô. Tyawan no naka no mizu wa, kanziyasui kikai no yôni, sugu ni yurayura to yurete, tiisana nami o tateru desyô.

(3) Tugi ni, kono mizu o ireta tyawan o taiyô no yoku atatte iru engawa ni oite goran nasai. Kono tyawan no mizu o terasita taiyô no hikari wa kanarazu hansya site, doko ka ni sono kage o utusimasu. Hora, tenzyô no sumikko ni marui katati no hikari no kage ga ututte imasu. Sate, kono hikari no kage wa taisô kanziyasukute, goku kasukana hibiki nimo sugu yurayura to ugokimasu. Zutto mukô no engawa no hasi o tataite mo, tôku de syôzi o aketari simetari sitemo, sono tyotto sita hibiki de, tatimati yurayura to ugokimasu.

(4) Kono zikken de, sindô wa, sore ga donna ni kasukana mono de attemo, zuibun hayaku, tôku no hô made tutawatte iku mono de aru to iu koto ga wakarimasu.

別紙 3の(2)

〔Ⅱ〕 筋 書	小学校	5年 組	番号	名まえ	男 — 女
---------	-----	------	----	-----	-------------

〔しつもん〕

もんだいの文をしらべながら、次のしつもんに答えなさい。

1 この文は四つのぶぶんに分かれています。一つ一つのぶぶんにはどういうことがかいてあるか、a, b, c, dのうちでいちばんよいと思うもの一つに ○ をつけなさい。

- | | |
|----------|---|
| (1) のぶぶん | a ^{つくえ} 机をたたいて、しんどうさせてみる。 |
| | b さらにのせたからのちやわんを机にのせてしんどうの実験をする。
<small>じつけん</small> |
| | c ちやわんと机の <small>かんけい</small> 関係をしらべる。 |
| | d ちやわんを机の上からおとす実験をする。 |
| (2) のぶぶん | a ちやわんの中の水を、机をたたいてこぼす実験をする。 |
| | b ちやわんに水をいれたときと入れないときのちがいのためす。 |
| | c ちやわんの中の水のうごきかたのためす。 |
| | d 水をいれたちやわんを机にのせてしんどうの実験をする。 |
| (3) のぶぶん | a かすかなひびきが <small>とお</small> 遠くまでつたわるかどうかの実験。 |
| | b しょうじをあけたり、しめたりする実験。 |
| | c 水をいれたちやわんを <small>たいよう</small> 太陽にあててみる実験。 |
| | d 太陽の光 <small>ひかり</small> がてんじょうのすみっこに <small>はんしや</small> 反射するかどうかの実験。 |

(4) のぶぶん

- a しんどうは大きければ大きいほどはやくつたわるということがわかる。
- b どんなかすかなしんどうでも、はやく、とおくのほうまでつたわっていくことがわかる。
- c かすかなしんどうは、とおくまでつたわらないで、とちゅうで消えてしまうことがわかる。
- d この実験では、しんどうがとおくまでつたわるものか、つたわらないものかよくわからない。

また、もんだいの文にはどうい^{だい}う題をつけたらよいか、a, b, c, dのうちで、いちばんよいと思うもの一つに○をつけなさい。

- a ちゃわんの実験。
- b はんしゃの実験。
- c しんどうの実験。
- d ひかりの実験。

2 (3) のぶぶんにかいてあることが、次にかきならべてありますが、もんだいの文にかいてある順^{じゆんじよ}序に番号を()の中にかきいれなさい。

(3) のぶぶん

- () えんがわのはしをたたいてみたり、しょうじをあけたりしめたりする。
- () ちゃわんの水が、太陽^{たいよう}の光^{ひかり}を反射^{はんしゃ}して、てんじょうにかげをつくる。
- () 光のかげはたいそうかんじやすい。
- () ちょっとしたひびきで光のかげがゆらゆらとうごく。
- () 水をいれたちゃわんを太陽のよくあたってあるえんがわにおく。

〔Ⅱ〕 第2期テスト

ローマ字教育実験学級，昭和28年度第2期テストは，各学級において第2学期の予定授業を終った後，直ちに実施するもので，〔Ⅰ〕変
化形，〔Ⅱ〕書くこと，〔Ⅲ〕黙読の3種類とする。

その要領は次のとおりである。

種 類	問 題	用 紙	時 間	採 点
〔Ⅰ〕変 化 形	文部省で作成	各学校で印刷	6分	文部省で行う
〔Ⅱ〕書くこと	〃	〃	10分	〃
〔Ⅲ〕黙 読	〃	〃	10分	〃

以上の3種類をこの順序で続けて実施する。ただし，各種類の問題用紙を全部1度に配るのでなく，一つのテストがすんで，その答案を集め終ってから，その次の問題用紙を配るようにする。

テストを終わってから

(省 略)

〔各種類の問題の実施方法〕

〔Ⅰ〕 変 化 形

1 準 備

- (1) 別紙1に示すとおり用の紙を作成する。(ただし，つづり方・わかち書きなどは日常指導しているとおりにする。)
- (2) 用紙はわら半紙の大きさ(規格B4判)のものを横長に用い，別紙のとおりに左右に分けて印刷する。(ここでは，印刷のつごう上，1ページにした。)
- (3) 用紙を裏向きに配り，問題のやり方を説明する。
- (4) 説明のときに，文部省指定(下記)の実例を黒板に書いて説明し，テストの実施にあたってはそれを必ず消すようにする。

2 児童に対する注意(問題のやり方の説明。)

(1) 紙を裏向きに配りますから、「始め。」というまでは問題を
読んではいけません。

(2) これからやる問題の1は、文の中の一つのことばがいろい
ろの形で書いてあります。その中でその文にいちばんよくあて
はまることばを () で囲むのです。

(3) たとえば

Dare demo yoku (kangaeta, kangaeru,
kangaereba, kangaenai) wakarimasu.

という問題であれば、

Dare demo yoku (kangaeta, kangaeru,
(kangaereba), kangaenai,) wakarimasu.

というように kangaereba を () で囲めばよいのです。

(4) 問題の2はこのことばの所が書いてなくて、その文の終り
に、そこに入れることばのもとの形がかっこの中に書いてあり
ます。文の意味をよく考えて、意味がよくとおるように形を変
えて書き入れるのです。

(5) たとえば

Yoku _____ kaite kudasai. (kangaeru) という問題
があったら、かっこの中の kangaeru を kangaete と変えて
_____ の所に書くのです。

[(3), (5)を実際に板書して説明し、「始め。」と言う前に消
す]

(6) 「やめ。」と言ったらすぐにやめなさい。

(7) 名まえの所はあとで書きますから、「始め。」と言ったらす
ぐに問題にとりかかってください。

3. 実 施 (実施前に板書した例を消すこと。)

(1) 「始め。」(いっせいに始めさせる。)

(2) (6分たったら,)「やめ。」(いっせいにやめさせる。)

(3) 名まえの欄に記入させる。

(4) 集めて番号順にとじる。

〔I〕 書 く こ と

1 準 備

(1) 別紙2に示すとおり用の用紙を作成する。(ただし、つづり方・わかち書きなどは日常指導しているとおりにする。)

(2) 用紙はわら半紙の大きさ(規格B4判)のものを横長に用い、別紙のとおり左右にわけて印刷する。

(3) 実施に際しては用紙を裏向きに配る。

2 児童に対する注意(問題のやり方の説明。)

(1) 紙を裏向きに配りますから、「始め。」と言うまでは問題を読んではいけません。

(2) この問題はローマ字文の中に漢字やかなでことばが書いてある部分がありますから、そのことばを下のわくの中へローマ字で書くのです。

(3) たとえば

きいろの	バス	ni noru	という問題であれば、
Kiiro no	basu	ni noru	と書くのです。(この例

は、日常指導しているつづり方・わかち書きに従って板書して説明し、「始め。」と言う前に消す。)

(4)

--

 の中に書くときには、わかち書きにも注意して書きなさい。

(5) 名まえの所はあとで書きますから、「始め。」と言ったらすぐに始めてください。

(6) 「やめ。」と言ったら、すぐにやめてください。

3 実 施

〔I〕に同じ。(ただし、時間は10分。)

〔Ⅲ〕 黙 読

1 準 備

- (1) 別紙3に示すとおり用の紙を作成する。(ただし、つづり方・わかち書きなどは日常指導しているとおりにする。)
- (2) 問題の用紙はわら半紙の大きさ(規格B4判)のものを横長に用い、別紙のとおり左右に分けて印刷する。質問はそれぞれの黙読させる文に続けて書き、特に質問の用紙を別にしない。用紙は2枚にわたってもさしつかえないが、配るまえに同じしておく。
- (3) 実施に際しては用紙を裏向きに配る。

2 児童に対する注意

- (1) 紙を裏向きに配りますから、「始め。」と言うまでは問題を讀んではいけません。
- (2) この問題のやり方は紙に書いてありますから、それをよく讀んでまちがえないようにやりなさい。「やめ。」と言うまでどんどんやりなさい。
- (3) 名まえの所はあとで書きます。

3 実 施

〔I〕に同じ。(ただし、時間は10分。)

別紙 1

〔I〕 変 化 形	小学校	5 年 組	番 号	名 ま え	男 — 女
-----------	-----	-------	-----	-------------	-------------

1 つぎの文を読んで、いちばんよく文の意味がとおるように、{ }
の中のことばを()でつつみなさい。

(1) Bokú wa kingyo o 5-hiki kingyobati

ni { ireta, ireruto, iretara, }
 { irenai, ireyô, ireru, } katte imasu.
 { iretemo, irete, iremasu }

(2) Isoide { suru, siyô, }
 { sinai, sitemo } ma ni au.
 { sinakereba, sureba, }
 { sita, simasita }

(3) Boku wa okâsan ni { yobeba, yobareta, }
 { yobareru, yobarete, }
 { yobitai, yobuto }

node, sugu ni { tatta, tatô, }
 { tatuto, tatu, } ikimasita.
 { tatte, tateba }

(4) Sore o yoku { miru, mita, }
 { minai, mitemo, } goran nasai.
 { miseru, misete }

2 つぎの文の _____ のところへ、()の中にあることばのかたちを、文の意味がよくとおるようにかえてかき入れなさい。

(1) Minna ga tanosisôni _____ hanetari site asonde iru.
(tobu)

(2) Donnani yoi hon o motte itemo, sore o _____ nan
nimo naranai. (yomu)

(3) Omote e asobi ni _____ to sita toki, niisan ga yonda. (iku)

(4) Syasin o utusimasu kara, sibaraku no aida _____
kudasai. (ugoku)

(5) Te o _____ kara gohan o tabemasyô. (arau)

〔(問題用紙作成上の注意) _____ の長さはじゅうぶんにとること。〕

別紙 2

〔Ⅱ〕 書くこと

小学校	5年組	番号	名まえ	男 女
-----	-----	----	-----	--------

次の のところへ，その上に書いてあることばをローマ字で書き入れなさい。わかち書きにも気をつけて書きなさい。

(1) わたしたち 字 を kaku toki niwa えんぴつ
 ペン ふで を つかいます

(2) てんらんかいじょう dewa ろうか を しずかに
 aruite kudasai.

(3) ちいさい つくえ no ue ni, きれいな ざっし
 ga 1さつ oite arimasu.

(4) マッチ を 四つ kudasai.

(5) Boku to ^{いもうと} wa kono ^{つぎの} ^{きよう} 金曜日
 ni ^{ねえさん} to ^{いっしょに} ^{うへのこうえん} 上野公園 e iku
 ^{よてい} desu.

(6) Are ga ^{有名な} ^{ふじさん} 富士山 to ^{いう} yama
 desu.

(問題作成上の注意)

- 1 行と行との間はじゅうぶんにあけて、の中へ書き入れるべきことばがまぎらわしくないようにすること。
- 2 の大きさは児童が語を書き入れるのに、じゅうぶんな大きさを見込んでゆったりとること。高さは少なくとも1cm、長さは語に応じて適当に決めてよい。
- 3 行末に余白が少なくての長さがじゅうぶんとれないときは、次の行に書くこと。一つのを二つに分けてはならない。

別紙 3

黙読	小学校	5年組	番号	名まえ	男 女
----	-----	-----	----	-----	--------

この問題は三つの部分に分かれています。一つの部分が終るごとに質問があります。その質問に答えてから次の部分をするのです。(1), (2), (3)の順序にやりなさい。

(1) Suez-unga o horu koto ni seikô sita Reseppusu wa 1881-nen ni Amerika no Panama-unga o horu daizigyô ni torikakarimasita.

Tokoro ga, Panama niwa Suez-unga to tigatta muzukasii koto ga takusan arimasita.

Suez-unga wa sunazi-tuzuki no toti desita. Da kara, sunazi no kisi ga kuzurete, hotta tokoro ga asaku naru sinpai ga arimasita ga, horu koto wa raku desita.

Tokoro ga, Panama wa marude tigatte ite, doko o hotte mitemo katai iwa darake desita. Mata, Panama niwa warui byôki ga hayatte ite, minna ga sono byôki ni toritukareru to iu koto mo arimasita.

×

×

×

Panama-unga o horu koto wa, dô site muzukasikatta ka, tugi ni kaite aru koto no naka de tadassii to omou mono zenbu ni maru [○] o tukenasai.

- 1 Okane ga taranakatta kara.
- 2 Katai iwa darake datta kara.
- 3 Reseppusu ga namakemono datta kara.
- 4 Ikura hottemo suguni kuzurete simatta kara.
- 5 Warui byôki ga hayatte ita kara.

(2) Huyu no yoru wa 1-nen no uti de, hosi ga itiban takusan miemasu. Yûgata minami no sora o miruto, mittu no hosi o kakonde, yottu no hikatta hosi ga miemasu. Sono uti, hitotu wa aoziroku hikatte mieru node, dare nimo mitukeyasui hosi desu. Korera no hosi no atumari o mukasi no hito wa Orion to iu karyûdo ni mitatemasita.

Natu no koro, Hokkyokusei no nisigawa ni mieta Hokutositisei wa, hantaigawa no higasigawa no hô ni miemasu. Sono kawari ni nisigawa no hô niwa itutu naranda Ikaribosi ga miemasu. Kono hosi mo Hokutositisei no yôni, Hokkyokusei o sagasu meate ni narimasu.

×

×

×

Ue no bun ni kaite atta koto o matomete tugi ni kakinarabete arimasu. Ue no bun ni kaite atta zyunzyo ni bangô o () no naka ni kaki-irenasai.

() Sono hosi no atumari o mukasi no hito wa Orion to iu karyûdo ni mitateta.

() Ikaribosi wa Hokkyokusei o sagasu meate ni naru.

() Minami no sora niwa mittu no hosi o kakonde, yottu no hikatta hosi ga aru.

() Huyu niwa Hokutositisei ga Hokkyokusei no higasigawa ni mieru.

() Natu niwa Hokutositisei ga Hokkyokusei no nisigawa ni mieru.

() Huyu no yoru wa 1-nen no uti de hosi ga itiban takusan mieru:

(3) 4gt. no hatuka wa dô iu hi desyô ka?

Yûbin-kinenbi desu ne. Nipponzin wa hitori ga 1-nen-kan ni dono kurai tegami ya hagaki o dasu desyô ka? Syôwa 23-nen no sirabe dewa heikin 27.5-tû dasite imasu. Sate, gaikoku dewa dô desyô ka? Amerika dewa 265.5-tû, Huransu dewa 106-tû, Iギリス dewa 260-tû, Suisu dewa 205-tû mo dasite imasu. Ima, sita ni iroirona kuni no namae ga kaite arimasu ga, tegami ya hagaki o dasu kazu ga sukunai mono kara zyun ni bangô o tukenasai.

() Suisu

() Iギリス

() Nippon

() Amerika

() Huransu